



答問書

上

服部文庫
117
3/1
1





先生答問書上

一 何者乎平生涉程摯程江如以利益多以後也乎進
以名以求也其所以作在境中深切之彼感合聖人之道
廣大無邊有以物中君子之道乎仁在仁在
又所要身做身處在仁之意也此事之大略心身以
以之意也示極之極在身的切訓解少之在處在
天理人欲之從後世之具識也大有相違也

家内とは随分目次見ざる年月日道行くにわも
時々志かり打擲をしいたしるすもさあゝ意此を
まゝも存せし見教ふ心かるるを一生に
存の者を苦ふいたしるす是天性父母の心かくの
りく成物をもせられし賜き民に賜かぬ事
の事よしと學子百之二百名もさるる二之子名あする
夫より國郡を主天下を知らず河方に加給の河心
に存せしる事よしと世に賜き民の心は違ふ
方より下りし賜き事よしと是るる不謂はし今

量の大小より怒りゆの賜き民よしと誰
かて者も存せしと士大夫諸侯となりとこの家内
傾内と志のしと世に賜き民の心は違ふ
ら思ひ身殺されぬ眷屬と存心此付るもの其心
あはしとて己も内もゆきとたりあり其力かひして
己も内を引つけしとぬまされし量の大小は強
弱のありしと非力なる者強力の志似とせしと
叶ふ事しと小量の人の何とて大量に成るるを
可しと思はし小量此人は深きと苦ふしと

徳成りたる簡し符中前書より其教
年来く傳者の誤りをもその容れ難く容易に心得
とて其書を其の今一往根元へ又より具す
竟辭禹湯文武を古く聖人とし其考古く人君を
其道とす天下國家を平治せ成りたる聖人の道
立ぬ道とす是を天地自然の道と見ゆ事
元老莊し從より起りしは傳者ぞ其を
尤聖人の廣大其深なる智慧とて人情物理に及
ぬ概りたること其理なる事其理とす其とも聖人

出たりぬはあり天地より自然と遊りたるは道理
今日の人も其心も立たり求めたるもの見ゆ
説くは誤り少し其統は古之人君の天下由りて平
治す成りたる道とす是は存心仁を根元とす
依是仁心より見開きたるを聖人の道の上事とす
る管此付積皆ちびは是聖人の御事とす
志進めたりその存心士大夫乃君は其もては國家を
君の御事めおすも徳を以ては其民を父母とす
而よりる管を付するも其の職分も漸り

明はあひて一文のけしきも出さぬと云ふは人の心
を記す物とてこれなくも別な物とてこれなくも満世
界乃人志とぐり人忍の民の父母と有り此を物と
役人とは是は臣と有り相解る事とは此は士大夫の
事を君子と云ふ君子と云ふは孔子の通稱を君
徳ある君子と云ふ事と云ふ孔子の君子仁と云ふ徳之
名を成人と云ふ徳も君子と云ふ名仁よりつけたる
なりと云ふ事と在るは老の及ば山林に籠居り一人と云ふ
事と云ふ釋迦と云ふも世に拵家を離れ乞食の境象

にて夫より工夫せたる道先は心志の心と云ふ
斗て天下の心を治めしむは後不云ははた聖人の心
ももこの心と治めしむは相解る心と云ふ身心と云ふ
てこの心と治めしむは心と云ふ心と云ふ佛老の諸餘
と云ふ思ふ心を聖人の道と云ふ心を修めしむも有るは
それ人の上と云ふ人の心此は儀也云ふて下たる人侮
るは信服する事人情の常と云ふ事と云ふ天下の人心
信服する事と云ふ心を修めしむは是れ天下の心を

治めしむは是れ聖人の道と云ふ事と云ふ

道は何れも此世をともならず、
ては欲は有根之石入るる当又根の疑出ず

一 此間歴史を以て成し、
目録の目録は其時、
資治通鑑にかき、
成りて者、
目の個目録を以て、
功の目録を以て、
褒貶を以て、

だちの史学問、
亂の毒、
比と思ひ、
歴代、
悉皆、
学問、
成り、
個目、
史の

+

おとけりし上 綱目く議論の弁判を押したる
格定まり道理一定して朽かぬ極まりし天地も
活物し人も活物しを繩をくく縛りかきおとす
見ゆて誠ニ無用ニ學問を只人の利口を長しはとて
おとけりし事実斗く資治通鑑をく勝りし其と
四書史記を思補理窟はきりしを又も上り
綱目中覺ゆて古今の事跡く上り朽かぬ
朱子伝の理窟を誦習熟ししはとて
學問の極身長目く道と爲りしは國を履見

ぬ異はしむるもぬは自ら翼をきて飛行し
今も世に生じて數ふ哉の昔も事を今日も
存するの長き目なりと事なされし見聞廣く事
實小なりしはと學問も事なれし學問歴史は
極まりしはと古今和漢一通はるしはと今世の
凡俗の肉より目を見出しし廣く事を秘井の内乃
蛙に非常ていの世とく人も功者なる人ありしはと
其の事なりし切者もと老人三者之物は困と多く
見ゆて人相違は物なりしはと人かき年履有るは

五十年間の事多し、不存何程國勢多く
見ゆ九十餘州、見ゆされ予は是より出る言つて
成小徑書を由院先古事実を由存知言てを
今世し事て聖人の時代を思ふやうに遠く
北に多く由存文育身軍者として並に羽
郷しつと今く將軍家極存秩文和留杯も
今世の大名極さくゆも時代を不存をいふ言
りり時代のかりをよく言ふも治乱盛衰は
理古今の別る聖人の道、末世までも用は極

人物

聖人の由存ゆりり、極は知らず事よき之歴
代、商極の事、極し人、極は存、我知見を
唐の事、記り、由存は是皆歴史之功、之由存歴史
此内、之歴史、在、傳、之、歴史の等、を、事、之、方、極、を、今
目、は、見、る、ま、か、き、れ、の、第一、面、向、く、之、く、見、る、角、に
事、之、情、心、は、移、り、感、賞、い、く、之、徳、由、存、は、并、上、代、の、由
之、由、存、の、古、学、く、凡、歳、海、の、名、宋、学、く、学、問、の
窠、詞、子、存、予、は、是、く、方、之、資、治、通、鑑、の、綱、目、より
勝、り、予、の、文章、拙、の、事、之、情、心、は、移、り、か、く

爲^レ州^ノ司を多く治け^レる^レを^レ以^テたり^テ
持^テ事^ニは天下乃^レ必^ク君を治め^レ右守縣令と^レり^テ
代官^ノ極^ク多^クお^シ三年^ノ替^リに^レ成^テ替^フる^レに^レ
法度^ノ立^テ極^ク三代^ト替^リ嚴密^ニ天子の國^ノ郡^ト替^リ
皆^ク志^スる^ニ三年^ノ替^リに^レ急^ニ驗^シ見^ル事^ト替^リ
乃^レ風俗^ハ士民^ノより起^ルて宰相^トも立^テ身^ヲ被^ル
事^ノ如^ク事^ハ士大夫^ノ立^テ身^ヲを求め^ル人^ハ是^レ三代^ト
後世^ノの大限^ノを^レ過^スて^レ西^ノ海^ノ日^ノ中^ニ在^ル郡縣^ニ
此^レ今^ノ程^ノ封建^ニ其^レ成^ル唐^ノ宋^ノ諸^ノ儒^ノ統^ニに^レ用

かた^レ此事^ハ西^ノ海^ノ唐^ノ宋^ノ諸^ノ儒^ノ統^ニに^レ用^ル
論^ハ西^ノ海^ノ低^ク上^ニ書^ハ法^ハ林^ノ崇^ト也^ト少^シ以^テ之^ヲ
實^ニ此^レの^レ事^ハも^レ理^ノ見^ル事^トり^テ
お^シ漢^ノも^レ漢^ノ書^ヲ以^テて^レ己^ノ才^ヲ智^トと^レあ^ルる^ニ
攝^ル只^レ圓^ノ漸^ト衣^ノ極^ト心^ヲ以^テり^テ相^見に^レ持^テ
学^ノ志^ノの^レ徳^ヲ物^トと^レ今^ノ其^ノ書^ハ法^ハ受^ル成^ル皆^ク
極^ク也^ト思^フる^ニた^レ西^ノ海^ノ事^ハ法^ハ治^めた^レ也^ト
醫^者ノ^レ病^ヲ治^める^ニ法^ハ氣^ヲ以^テり^テ治^める^ニ
火^ハ有^ル合^テ程^トも^レ疝^ノ氣^ト持^テ病^ヲ治^める^ニ法^ハ也^ト

病人の中は元氣を補ひ瘧疾を静め余積を消
疝氣を抑へ咳を止め濕を止め其配劑をいへり
不効加減して尤なる極めを療治の大形にして醫
者の去る事なる功者なる療治に尤元氣を補ひ
後瘧疾を治する事と有るは先瘧疾を治して
後元氣を補ふ事も有る元氣を補ふ事
外に攝する事ありては後愈ゆる事あり元氣の
病根疝氣と見て疝氣を治して外に尤も愈
ゆる事あり又疝氣之久及痼疾にして尤病根疝氣

と見ても疝氣は治す所なく調劑はしめて
自然と愈ゆる事あり愈ゆる事あり標症たる急
なる事あり是れ先濕を止め其上に後療治する
事ありは如是療治を以てし尤も功者なり
後一途に尤も物に尤も功者なり明細
一も妙なる事ありは如是療治を以てし尤も功者なり
くは人にして後其原を以てし尤も功者なり
有るは是等書に人にして尤も功者なり
事にして尤も功者なり

此と刊故を尋くを疑之難と所答は然る君子の
國を治る民を安んずるのむづかしい事ある其
むづかしい事なる一得たる君子の心安く母明の極を以て
事の中意を以て亦存心誠意の世俗に誘ふはたゞ
之を治るがごとく成徳中にも経済の論は多く有
る事なればそれ以上の上から亦存心誠意の
ありて由を治むるのむづかしい事なる見ゆ
度むる。あるに任職の事をも亦存心誠意の
学問の只存心何れもかちと亦存心誠意の
学問の只存心何れもかちと亦存心誠意の

む事をも亦存心誠意の論を以て面白く思ふ
政務の涉るる一むづかしい事なる亦存心誠意
小きなれば抑々かゝぬ事をも以て思ひ己の量小
きなれば知りたる事をも亦存心誠意の論を以て
此は是れがむづかしい事なる事なれば此戒の肝
要なる事

一 此作は亦存心誠意の不足は後武門より尤も亦存心
小の事なる事なり知仁勇と三達徳より以て君子の
勇なると亦存心誠意の大徳なる事なり

ぬ事には氣遣中事人情に常にて中流の如く人を
船頭風の波と恐れぬ如き勇い似て大馬の如き
恐るに世に武は扁者といふ人も禪法に場をとり
少くは外に勝つるものも少くは内なる事
故に又幼児の如く君に遊ひ戯るに神の角を夜中
なれ恐るるを物にあら目に見えぬ如き物も
道理を知らぬ危殆といふ物もなれ道理を志ん
と斗ふに少くは知れぬと疑生し氣を多く
成す物も少くはなれぬものも少くは初に後先

あつて其事なきに後大氣を危殆とい
次事なれぬものも少くは初に後先
物に危殆といふものも少くは初に後先
勇氣不足といふ中流の大流に通す世乃
中流の人知人力の及ぶに取有るものも少くは初に後先
右に少くは必勇氣下けし事其人力乃
さき不中場にて天命おやろせしより外に他
空流に故に勇氣根干しし天命を知る
知ぬに少くは後先仕事して世の人此富を得

貴と得りて己の習力に^{いんち}て成得たるを思ふ心
存はば天の助をばあやむるも不存はば
時成然し^{いんち}時何事も破さるる一定の程を
しかる極の場よりりて天道の助をて成然と
といふ事ハ^{いんち}事ハ^{いんち}たを^{いんち}農民の田を耕が^{いんち}
随分よ農作の力成り^{いんち}大風水旱の人力の及
たざる^{いんち}に^{いんち}人の子をた^{いんち}御乳の
と^{いんち}怪我^{いんち}あや^{いんち}ま^{いんち}なる^{いんち}何^{いんち}何^{いんち}
泳(目)目^{いんち}付^{いんち}の^{いんち}大名の子も^{いんち}怪我^{いんち}

事者^{いんち}又^{いんち}駭^{いんち}き^{いんち}者^{いんち}の子^{いんち}其^{いんち}母^{いんち}之^{いんち}涙^{いんち}世^{いんち}の^{いんち}眼^{いんち}
は^{いんち}た^{いんち}た^{いんち}日^{いんち}の^{いんち}雨^{いんち}を^{いんち}心^{いんち}備^{いんち}
る^{いんち}か^{いんち}誰^{いんち}も^{いんち}付^{いんち}人^{いんち}も^{いんち}さ^{いんち}り^{いんち}と^{いんち}溝^{いんち}
堀^{いんち}も^{いんち}踏^{いんち}殺^{いんち}せ^{いんち}ば^{いんち}た^{いんち}ら^{いんち}の^{いんち}産^{いんち}
神^{いんち}の^{いんち}ま^{いんち}り^{いんち}め^{いんち}と^{いんち}や^{いんち}の^{いんち}じ^{いんち}ぎ^{いんち}と^{いんち}さ^{いんち}る^{いんち}の^{いんち}と^{いんち}は^{いんち}存^{いんち}不^{いんち}乃^{いんち}
境^{いんち}を^{いんち}よ^{いんち}く^{いんち}得^{いんち}道^{いんち}い^{いんち}た^{いんち}ら^{いんち}く^{いんち}早^{いんち}急^{いんち}の^{いんち}前^{いんち}天命^{いんち}を^{いんち}是^{いんち}
ある^{いんち}し^{いんち}の^{いんち}念^{いんち}然^{いんち}て^{いんち}余^{いんち}の^{いんち}天命^{いんち}の^{いんち}明^{いんち}く^{いんち}の^{いんち}一^{いんち}天^{いんち}に^{いんち}
事^{いんち}よ^{いんち}心^{いんち}を^{いんち}動^{いんち}し^{いんち}の^{いんち}義^{いんち}の^{いんち}孟子^{いんち}の^{いんち}集^{いんち}義^{いんち}と^{いんち}法^{いんち}
説^{いんち}の^{いんち}子^{いんち}細^{いんち}有^{いんち}の^{いんち}事^{いんち}元^{いんち}元^{いんち}第^{いんち}二^{いんち}等^{いんち}の^{いんち}事^{いんち}と^{いんち}の^{いんち}思^{いんち}は^{いんち}

集義く工夫して、理窟強く片意地は成り失有く
物に又理窟をたられし場より去りて、却るる人
物を失ひし氣、雷氣出ず、物に孔子の不知天命は
以為君子と注し、仁勇の之徳一通し、孔子とて
此思ふ以上、彼に載り、堯舜禹湯文武周公孔子とて、
皆天命を主として、孔子にて成るる也

一 鴻して風雲雷雨、天地の妙用を、神、雷、雷、雷、雷、
徳、徳、徳、徳、徳、徳、徳、徳、徳、徳、徳、徳、
陰陽、氣、た、り、或、鬼神、所、為、た、り、或、歎、勤、業

此の身は天地の造物を、神妙不測なる物にして、人乃
取、知、り、思、計、を、た、れ、る、の、徳、説、也、是、れ、也、
皆、推、量、の、法、也、
徐、君、子、の、学、問、を、以、て、國、家、を、平、治、す、る、乃、と、學、問、
事、を、人、事、の、上、の、事、と、し、
知、り、事、を、宋、信、具、得、る、ゆ、え、
一、葉、一、木、乃、理、す、と、
君、子、の、天、地、の、間、の、事、を、極、め、
志、す、ぬ、事、を、物、志、す、と、

中庸小雅 聖人有欲ふおとあむのといふ人れおとあむ
何とぞ知りあむといふ事つありて 弟の徳の
なる事と云ふ人をして徳のといふは是よりして
不知と恥と云ふといふを信者盛んといふは皆言徳の
ふといふ聖賢の道は是を以て事には風雲雷雨の
形も天地の妙用は人智の及ばざる所にして弟の徳
さむのいふは流き山の詩のいふよりのいふ歎乃至
人の立居たをいふもいふなるかといふこと
あつては理学者の中の節に僅り陰陽のいふごとく

の漢管脱二十之一葉別副

あつては仁に其徳をいふは是を不孝と罪といふは
事之勿作後を存孔子の博奕と爲すは賢まて
は仁人の只いふことありぬ物といふは是を居て
しつては是を不祥といふは是を出来りし物といふは
ぬはは仁人の聖人一人情を去るは存知のいふは所より
賢いといふは天下國家を治めしものも嘗て小達といふ
あつては有る言は筆を以てては去るは勸を以てては聲
色のぬも言はたり筆比のたつては朋友といふはかく
たりといふは人といふは同士のあつては是も事といふは仁

ぬき、再いふ。ふるまひも、^い次第^い無聊^い成^いの事。此
のい^い謀^い象^い我^い双^いの^いも^い打ち^い奇^い業^い法^い義^い業^い宿^いり
以^い時^い念^い佛^いと^いも^いの^いも^い外^いに^いさ^いり^いと^いも^い不^い作^いす^い。
何^いと^い以^い制^い當^いと^い何^いと^い不^い作^いと^いも^い寂^い寥^いを^い以^い耐^いす^い。
半^い計^い老^い後^い之^い境^い界^い思^いを^いや^いる^いも^い其^い上^い佛^い法^い世^い上^いの^い
これ^いの^いの^い千^い年^いの^い迫^いく^いの^いも^い佛^いと^い天^い下^い一^い民^いの^い聖^い人^い
道^いの^い民^いを^い安^いん^いと^いを^い本^いに^い仕^いの^い心^い氣^い積^い聚^いの^い痼^い疾^いを^い
た^いり^いの^いの^い扁^い鵠^い由^い瘡^い治^いを^いい^いと^いも^い是^い以^い除^いき^いり^い
配^い劑^いハ^い施^い一^いノ^い事^いハ^い蛇^い蝎^い毒^い虫^いと^いて^い地^いに^い化^い育^いす

これ^い不^い以^いし^いて^い佛^い法^いも^い未^い乃^い世^いの^い相^い應^いと^い利^い導^い
有^い之^いの^いた^いは^い北^い邪^い正^いと^い善^い別^い法^いと^い以^い入^いの^い也^い淨^い徳^い
有^い之^いと^い存^いの^い後^い未^い業^いの^い慈^い意^いを^い以^い佛^いの^い不^い顧^い思^いを^い
よ^い入^いの^い也

答問書上終

徂来先生答問書中

一 徂徠、彼右角と云、穿鑿は、傳す、但法と人々、差
 別、此助辨、其心、元存、成程、は、何下、法と
 此法、有、何と、不仕法、之、有、何、依、法、吟味、
 可、不、可、事、此、何、徂徠、と、禮、人、多、只、仕、刑、若
 惡、身、吟、味、仕、惟、道、之、存、存、過、之、小、為、非、其人
 乃、不、意、^レ、中、事、有、法、^レ、人、於、肝、要、^レ、由、在、

たし法ハ無愛先人能て相應し利益ハ有る物言
法斗ハ吟味仕る人無補也何れ用も立事ハ又人
隨方法遠物ハ法ハ先まハ法也吟味法事ハ
之ハ也王莽王あるが用終盡也天下ハ法ハ
維新ハ法斗ハ法穿整立也人ハ食飲之ハ
白人醫也之ハ名方也集也ハ之ハ何種ハ其藥也
之ハ醫者下也之ハ病ハ愈也之ハ名方ハ不存也
醫者切者之ハ病ハ相應不愈ハ之ハ又名方也之
用是ハ之ハ之ハ難用物ハ其醫者之ハ是量ハ之ハ

用不好方ハ有るハ取ハ之ハ聖賢ハ人ハ之ハ之ハ務
之ハ之ハ人ハ得る時ハ法ハ人ハ之ハ人ハ之ハ儀
之ハ之ハ法ハ之ハ穿整計量也之ハ病相ハ之ハ自
之ハ之ハ用也之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ是既ハ大匠
量之ハ之ハ唐秦整ハ之ハ無它技ハ之ハ之ハ
篇ハ之ハ孔子ハ之ハ用也之ハ事ハ相見ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ有るハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
一前書ハ之ハ再蒙也之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ
二

けりし依失意とせむるは古今時々人少学問仕ゆ大
形其其や其り之を實に老思百筆とて有るは其
文過し^{おぼやかし}由云系し極に其むる若実の子や思えし
大まかり乃造を在るは國士の如く生一材其物
を生しゆの古も今も其の如く生る世界に用事なし
は多事なればの世とて無し物に人として其如く
尤尊賢を善く内より生る人と其缺^かたる代に今
功りゆれば其時代之用に之は得ぬ人オ必者物に
國無人とて事有るは其由は誤りてその亦夫若庭

人オ多しとてその朝廷に人オ多しといふは其朝廷に人
オ多し賢才下僚に從ひ或は民間に埋没ゆり乃其常
是也其人多しとて其ゆり孟子有るは歳を罪を此
類めて天子對し勿体なき事とせむる早急其書
中答りの通自かしく才智を其用は其報^あ膜とて
ある人の由目見え、方りて有るは其書面を越す其書
人オと其書定て其書は其文は其書合ふる人
才は不^あ相見え、其書信杯とて其書は其文は其書
病有るは其通理個目を見ゆ天下古今一人も朱子心

体多し物多し如きなどし心次第は細膩なり
物と氣道心法より進よりして仕立次第は細膩なり
過失と咎む事甚しそ下とも過失なき振子押
かへりて今時より後人よりみ是れ面とも過失な
き振子心をけりてとて振子取れは是れ今世より
俗を以て心得人より物多し結込深き事なり上を好
隠し事を第一と仕立れ人より公心を以て見く是れ
おとりより是れ足下より御芝根根り時代の事由りて
今世よりより是れ其時より名を以て能人より是れ

疵物より是れ別くる細に仕立るは是れ時よりは如く隠れ
事仕立るは疵見、中疵見、下疵見、人才能見、
今時より世より、思儀より深き人、疵多し仕立るは
物より、下人、才、人、才、人、才、人、才、人、才、人、才、
為、ひつ、疵、疵、疵、疵、疵、疵、疵、疵、疵、疵、疵、疵、
下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
色、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、

一疵物の使ひに、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、
人情世態は、下、下、下、下、下、下、下、下、下、下、

祥の候より山嶽位に心より多しは氣遣い止りて
由る由字向未熟して少量なるをとり魚を以てみえ關
打不透たけよ内うち玉たまはけなりなりは疵物きずものと申す
多しおほく七馬の志こころと云彼かくせを致いたすおこす時ときは物
く仕積しせき念ねん念ねんふ未ま未まの内うちは氣遣きぢををしし宗そう宗そうの志こころををしし
此こゝに坐まするま其その以も納なく仕積しせき念ねん念ねんある物ものををしし宗そう宗そう
馬うまをを者ものををしし杯はいをを結むすむ馬うまとのり者もの有あります
に馬うま御ご波な練れん波な一ひとたつつもも之この由よし在あります又また何なに程ほど馬うま御ご波な
練れんのの一ひと身み馬うまも活い物ものににささくくせのこの位くらい位くらいたたふふ知し道みちのの

極たぎりたる物ものををしし之この由よし在あります只ただ氣遣きぢと心こころははくく由よし在あります
字ありますす明あるるををしし押おするる一ひとたつつはけけくくたたととの
氣遣きぢををしし記し物ものををしし念ねん念ねんある物ものををしし及およぶぶ及およぶぶ
ををしし是この以も心得こころえををしし宗そう宗そうの志こころををしし馬うまのの志こころををしし
今いま時ときにに人ひと者もののの過とが失あつたつたをを咎とがむむ心こころははくく自みづかららとと也なり
失あつたつた記し極たぎりたる物ものををしし宗そう宗そうの志こころををしし及およぶぶ及およぶぶ
淨じやう心しんのの疵物きずものををしし候まをすす記し事ことははけけくく由よし在あります馬うまのの宗そう
とと云いふふ人ひとををしし馬うまのの志こころををしし得えぬぬ事ことはは人ひとををしし候まをすす
たたふふ人ひとををしし人ひととのの候まをすす不ふ得えぬぬ事ことのの鯨くじらををしし候まをすす

たしい因公の管蔡を使ひてさし給ふを以て
之は人の使ひたるしを以て思ひ人の聖人勝人
思ひて中流の大なる惑へて思ひて醫者のより療
治といはれざる膏附子杯の調法を薬となす
醫者の底物に彼一のけを膏附子に能くする膏
附子の害なき薬を求めしものたれなる薬の古より
今よむるまでなき事といはれざる長所を用ひて
病の目よむるなりは薬の皆毒とてしは毒と名を付不
りあるの長所を用ひてはあまはれずは世

此物候より名を付しては合致するや其起極ざるを
由來を實に天地のる此物何より次名長短得失
を以て其長所を用ひて天下に無物無才のる由來を
長所を以て存するや其短を以ては自らはきりて
底物と思ひては人の用ひては其長所を以て短
而も目を付するや人の道なき由來を以て
氣質を以て変化して渾然中の徳を以て
極多邪説せよを以ては醫者の陳皮甘草杯を
集めて病を以ては世に存する由來を以て

一愚老の誤り後ひ疵物と申用ひ交友思ふに其角の
長所を見、ふと成程の長所を有るを得
伊予吏の如く自ら是れと存するに由りて長所
の存否を以て長所を有るは是れ大形に存する要
知如神の中思ふと自身に長所を有るは但學問
此道に少くも被修練は是れ長所と自負するに
其外は修養に見るに存するに足らずと防衛に
此後後より自ら擧げたる之を三回等々修定す所
得物と存し其外侍大将の職分古く之後修定す

少武内蔵修理に似し山縣馬場の内侍長所を
以て決りて存知るは補は是れ由合點集りて
由りて人々才能知恵の程を知りて其人を以て
ありし修養より居るれとて古く人相取柄に非
通る別儀只その其人に長所を有るに由りて
人の活物とて事を行はせ見ゆに今迄之を才知り
知る物とて由りて其角用て是れ存するに由りて
由りて存するに由りて是れ書信に采とて由りて
存するに由りて長所を知りて後三用す

存る人、用らば、中、多、要、用、ひ、て、な、す、く、て、知、道、ぬ、物、
つ、思、ふ、所、但、用、系、然、て、又、次、第、中、在、り、け、方、より、指、導、を、
知、ら、ぬ、て、使、ひ、之、て、其、人、必、主、事、を、な、さ、り、之、を、以、て、
此、才、能、出、ぬ、物、を、い、ふ、事、ある、は、知、り、し、不、可、得、
た、と、い、指、導、を、受、け、ず、其、人、を、導、く、物、に、加、て、用、が、れ、
知、ら、ぬ、ゆ、え、に、此、誠、に、用、が、れ、し、之、は、是、が、常、乃、
道、理、を、是、より、外、に、又、妙、道、に、在、り、古、く、聖、人、
相、傳、へ、る、也、其、中、在、り、毛、頭、に、類、い、ぬ、事、多、く、
一、本、備、へ、候、れ、其、中、に、軍、法、に、因、禮、大、目、馬、に、職、分、を、

聖人、道、法、を、講、明、す、中、に、
等、法、軍、者、に、出師 領軍 布軍 城者
得、を、不、致、事、も、有、り、第一 候、に、戦、用、機、要、
彼、等、が、多、く、古、戦、に、奮、局、を、り、大、平、に、せ、り
之、の、上、を、指、導、の、た、り、無、用、空、論、と、思、ふ、所、
一、つ、仕、候、に、仁、政、を、上、下、一、致、不、得、ら、軍、に、指、導、
為、ら、ぬ、に、一、國、一、主、一、國、一、士、民、を、天、より、附、属、に、
成、る、眷、属、を、見、放、さ、り、之、の、と、入、亦、苦、其、國、
を、以、格、に、仕、く、是、軍、法、に、根、本、第、一、義、と、思、ふ、所、

莫し有るは何進は商賈の通塞と心を付くべき事は
民し裏つる奢りと賄賂なれ厳刑を以て賄賂を禁
衣服器用し制度を立るは智之心を用りく由と實
事心乃候ふは欺の事主とある所ハ國民の四ノ一
散去せざる極を處事しは上ノ各義方を志し志め
廉耻を著ふと誠の武臣とあり馬法を刀の術の上
催促及ぶ事なれ

一 以て下は海軍備國に相布せし國郡を領事令
君より縣也を新し居る中は物を先々の土地を人

奪はし是なり傳第一は古天子を宗宗より諸侯を
千宗より卿大夫を百宗より兵賦を以て名付はしこの
道理は漢律に賊盜の律を最初に正し盗賊と及盜
同類し物に盜賊を懲むるは武臣を没けはるる急務
ありは故に治平之事は時ハ兵威を以て民心を
して盜賊起る時ハ早速に加められ傳ちて不叶は
今時し代友古く縣令ありはは佐を紀の事あり
其時を治むるを職分とせず只年貢の事と
肝要と伝る書算の鄙人をて役としは職位と卑く

心もをのぼるる鄙劣も贓罪之徒も多出るべし一二万
石二三万石斗く欲む兵士を数も少く領内も狭小ハ
之を及ぶに七八万石十萬石も上り諸侯ハ必代
友ハ武備を加へ不申して不叶なり檢見とす世に
有之に斗筭の人を代友にぬ事ハ我ハ
貢賦之法ハ常免を極む三代之法夏ハ貢法殷ハ
助法周ハ徹法ハ徹法を貢助ハ助法を
公田私田を分ちて後世ニ雜用ハ貢法ハ常免ハ事
には大禹ハ法定めそは是ハ踏ハ良法也

人情ハ通達一古今ハ情弊を洞見ハ
立ハるに世上ハ檢見とす事ハ在りて
の奸曲ハ世ハ事ハ定免ハ仕ハる賄路ハ道斷ハ
奸曲を防ハぐそをのぼるる日本ハ古ハ異ハ
は秦漢ハ元明ハ皆定免ハ檢見を以テ見
取ハてにして國の財用ハ吏の囊橐ハ入ル
係其定免ハ法ハ入ル定額ハ在り定額ハ
國用ハ利ハ却テ簡便ハ定免ハ法ハ之
後ハ代友ハ勤事ハ代友ハ鄙職ハ定めハ

其家もそふかど被一たる士と云付かこ是より志
果ハ卿大夫皆民間の情うと云本偶人のこく如
よ以皆戦士の餘勇をうけて端細の制度と云思
儀

一 此は所以越全体便利を先とて流通をさすは
至極よき由る簡よて又及ぶ人も無く相見くは
大まき道遠はるは便利を先とて何れも滞
さし流るなくさむ此は事当分才幹は積お見ふ
亦遠く思ふは後道は害多し是は仕はは

早急の出来の成り見ぬ物よは勿小似て思
至と可思はる流通をさすは仕と商人は制を
物よは流通は天性商人の職分は侍りたるは
諸侯も力もも商人はふ及は是より流通を
さすは仕はは財用は権は必商人の手は是
思はるは当座は便利を先とて思はるは
中今一層深き思を加へ中交事は有
一 御身は主君は是より物よは思はるは是は
中は理窟は好く聖人たるは後には早急阿波逢

迎ふ只中とつと思ふに宋信も忠く字を見信り信
解しゆの忠と申すに徳る人々事と吾身此の如
存し少も必死を事には是を忠信く道に餘信
此の尤義小依て命と棄れゆの吾身の事此の如
ねり内とて相解り事には早竟聖人の道に因縁と信
小道をたぐく立信世依り信とて遠く其の是の如
上下より下に信せしと下より上は信せしめり多
母て此の世の風俗を上より下よりかゝる事
此の世の風俗若き事なりとて日用の事此

根成り重き役人も日番切の仕の起り跡の事
とは構ふゆの其職は有なり尸位表^たと物に
身はたき物と存しあるは是を忠信の事子細に
吾身も存しあるは妾婦たるも小女ハ身を人信
此の信を己が信をばは信夫に打信せしめ信
君の命をうけて其職をせり身の仕事と存し務
むる事も存しあるは信命に信なり信は信なり
存し其職を辞し事不忠は信を信し信は信
を信物と存しあるは信なり信は信なり

心あるも二つは仕立られし君一人より以後ありても居るに
 がたしく二つは君の助を依ひしものよそは空居るにを奴僕
 を使ふにぞく思五以上の過あやまちより起りて聖人の如く肖き
 中事ニハ君の上を以て侍りたりとやるをさ侍りの遠に居乃
 上よそハ君の事の事と相と不相の遠に君の思を
 次第よそけ方よりいらぬ事と存に上下心を二ツ
 すかと申すは是皆忠の字に義理分違ふより起り
 中の能く忠勤辨あてき事と相の心と

一 此傳下の政務は徳を充て極に相成るに侍りたる事

とまねは聖人の道に天を教へ祖宗を教へ以事をと
 本と教へて天より附屬に成祖宗より侍りたる國より
 自らし物を思はれりて外なる徳は古より祖宗の法を
 改まる相見、よの開國の時には生連しく若くは
 神心次第より侍りて先祖より侍りて心を以て心傳の法を
 亦立形を重んずる自由は至りて是神先祖を以て教へしは
 至りて其害を及事にして子孫に教へしを賜り
 て徳度とる人ありたよ及及れりて家を造るが如くは
 先祖より侍りたるをよけしを侍りたる人の造りたるを

任るより今其古家の任居を仕立しはするの如極
事一先之来し物をも別はれ十分よく直され申る
及は此極をぬけりよ引物をそれと當分の物に
任せて申す時思いの外なる所へ根拠あり極ゆるま
より家の弱じなりと申すぬ前より思ふぬ事多き
物に思老ごとも負者の古家より任るれは老なり
は喻ゆる存知有る及は又思ふと此の年ころあ
とも成り人の文に内三疝氣は久も瘵と有く氣血も弱
成り人却扁鵲に見えたりも其畢斗の比の健さるに返り

れぬ物に身の内より年久あ有るは瘵の如く瘵は任
てこのけられぬ物その推^そ忽なる醫者も當分に見知
但しともくは治せしと仕立ぬ病念不^しえ氣をそ
ない命を縮む類多し存はけ道理と能く金得仕
はも祖宗の法に改めぬ物と古人の言ふは十^は誠名云と
存は治れ盛衰も存は明くあり人情世態も熟練な
くは當分し是れ目前し利害を思ふは多し其國乃
古法を改めぬは不空事し至極に民の如く守人
ある物に久し仕立ぬ事の数代も前生れぬ是れ

悻入りのありきといひ悪事をしては猶も宜敷物に世界
の人の相持たる物を彼是敵通の^ゴ一^ク片^クぬき^クらぬ
年久敷なき事^クの^ク方^クに^ク極^クぎ^ク一^クい^クら^クる^クを^ク進^クべ^クし
是て人の得用を多くし^クて^ク進^クべ^クし^ク改^クめ^クて^ク進^クべ^クし^ク
此外なるわけい^クつ^クか^ク来^クり^クの^ク事^ク思^クひ^ク多^クし^ク進^クべ^クし^ク
の^ク深^クく^ク物^クを^ク名^ク業^クに^クめ^クり^クの^ク書^ク信^ク相^ク見^クく^クの^ク聖^ク人^クの^ク言^ク
さ^クも^ク方^クら^クの^ク事^クに^クは^ク開^ク國^クの^ク初^ク之^クを^ク忠^ク心^クに^ク制^ク作^クを
なり^クて^ク進^クべ^クし^ク也^ク是^クれ^クも^ク為^クる^ク也^ク是^クれ^クを^ク理^クの^ク信^ク未^ク
た^ク進^クべ^クし^クの^ク是^ク非^クを^クの^ク言^クを^ク信^クず^クる^ク物^ク也^ク

一 我々の平々理學の解法は除ふべきなり
よ^クし^クと^ク信^クひ^クて^ク進^クべ^クし^ク也^ク是^クれ^クも^ク為^クる^ク也^ク是^クれ^クを^ク理^クの^ク信^ク未^ク
一 輪廻轉生^クの^ク事^ク極^クく^クの^ク事^クに^ク思^クひ^クを^ク傳^クふ^クは^ク傳^クふ^クは^ク

佛學の石は^ク論^ク廻^ク轉^クす^ク沙^ク汰^クを^ク佛^ク説^クの^ク出^クは^ク佛^クの^ク佛^ク
者^クの^ク由^クり^クに^ク存^クす^ク但^ク宋^ク儒^クの^ク説^ク理^ク氣^クの^ク論^クを^ク以^クて^ク論^ク廻^ク
破^クす^ク理^ク窟^クに^ク宋^ク儒^クの^ク説^ク理^ク氣^クの^ク論^クを^ク以^クて^ク論^ク廻^ク
只^ク理^ク窟^クを^ク論^ク廻^クす^クは^ク佛^ク者^クの^ク大^ク形^ク理^ク窟^ク
あり^クの^ク事^クに^クは^ク佛^クの^ク不^ク限^ク理^ク窟^クを^ク以^クて^ク推^ク量^ク
沙^ク汰^クを^ク推^ク量^クす^ク沙^ク汰^クの^ク事^クに^クは^ク論^ク廻^ク轉^クす^ク

乃諸り此の釋迦の詞を依りて論廻有りと云ふは
惡を釋迦とは依仰の仕に聖人を依仰仕に聖人
教に之を依りてたといふ論廻も事有く此れと云ふ
不及依り信其子細に聖人の教を何と角も事足ら
不足なる事と云ふは事をも惡を深く依りて成り
管定まりしは是に思考する管を足下にも用處以
し中事と云ふは是に思考する管を惡を考する管と
多しと云ふは是に思

一鬼神有るの事此の古く言ひ論やうは

と程窟を以て理窟ハ次第と物に依りて信用成り
聖人乃徑若くは成程鬼神の相見くは宋
信の理氣陰陽を以て根と云ふは宋儒の
管と云ふは聖人の此の宋儒の説に
以て見之て畢竟鬼神を以て物と云ふは成りて
人の教と相違ひは信用難仕に聖人の書に鬼神
を治むる道に在りて鬼神は世界の利益なり
害は成りて是を相謝し事には佛を巫覡と説き
鬼神の治め振有りて其國を治むる及て害有り

聖人の書より遠くは(を)君子は信用を重んずる事、
冥々之中を見ぬまはる鬼神は(を)此相は(を)人の
存する人の事、め事、た(を)存するも聖人の教、乃
外に別な鬼神の治統あるは(を)行はざる不入事、
由る由る

一 此信を以て承りて、
つる由る民の信を失ひ、
信一ありて上り服せぬ、
たすれは(を)信
たするは(を)用心は(を)け(を)民よ(を)

を信ありて、
毛の(を)人(を)為(を)極(を)も畏(を)念(を)を(を)上(を)たる人(を)は(を)存(を)知(を)不(を)成(を)
心(を)より畏(を)入(を)る(を)思(を)ふ(を)も(を)あ(を)ま(を)り(を)は(を)思(を)ふ(を)なる(を)事(を)は(を)孔子
を(を)輒(を)軌(を)の(を)喻(を)を(を)は(を)信(を)の(を)君(を)も(を)民(を)は(を)信(を)を(を)れ(を)る(を)は(を)政(を)
行(を)れ(を)る(を)は(を)師(を)も(を)弟子(を)も(を)信(を)を(を)れ(を)る(を)は(を)て(を)は(を)ぬ(を)は(を)行(を)れ
る(を)は(を)朋友(を)も(を)相(を)下(を)る(を)人(を)と(を)人(を)との(を)ら(を)う(を)も(を)は(を)は(を)は(を)
る(を)は(を)信(を)を(を)は(を)は(を)て(を)合(を)は(を)る(を)の(を)人情(を)の(を)常(を)は(を)聖(を)人(を)の(を)教(を)は(を)
は(を)

一 志(を)多(を)の(を)は(を)信(を)を(を)承(を)り(を)て(を)極(を)を(を)た(を)る(を)は(を)餘(を)り(を)抑(を)作(を)天(を)過(を)は(を)は(を)存(を)は(を)

只今とく政務天子庶一不中して作天に敬いとも
天罰は道に有る爰してと由教^{くま}して過を改め徳を
備ふとく^くを由^く聖人^くの教の外^く別^くに祈禱^く法に
有る爰^く在^く天心^く返り可^くなり^くなり^く命に
道^くを^く不^く言^く存^くの信^く天^くに^く益^く益^くは^く妖^く不^く勝^く徳^くとい^くま^く
妖由人興^くと相見^くく^く人心^く此^く騷^く動^くく^く妖^く怪^く於^くは^く
中^く事^く亦^く大^く時^く心^く騷^く動^くく^く下^くし^く騷^く動^く止^くる^く爰^くは^く
知^く命^く無^く心^く為^く君子^くと孔子^くは^く何^くの^く天命^くを^く不^く存^く之^く^く
怪^くは^くま^くなり^く不^く中^く任^く問^く不^く顧^く之^く外^くに^く也^く如^く首^く

一 沛号令し文云^く見^く也^く此^く成^くの^く事^くに^く宜^く不^く宜^くの^く差^く重^くの^く文^く
云^く不^く宜^く存^くの^く條^くり^く此^く何^くの^く相^く違^くなり^く号^く令^くの^く如^く付^く不^く認^く
物^くの^く早^く是^く之^く理^く由^く存^くの^く下^くし^く人^く得^く心^く仕^くる^く爰^くは^く疑^く
有^くし^く付^く事^くに^く子^く細^くを^くと^くして^く此^く何^くの^くゆ^くなり^くと^くわ^くく^く
中^く以^く果^くて^く之^く理^くに^く号^く令^く不^く仕^くゆ^くなり^く由^く存^くの^く別^く又^く下^くし^く
為^く宜^くの^くに^く得^く心^く不^く仕^くゆ^く押^くて^く此^く何^く付^くつ^く物^く存^くの^く何^くの^く
け^く不^く入^く後^くに^く子^く細^くの^く民^く思^くふ^くの^く物^くを^く以^く存^くの^く執^くなり^く
上^くの^く人^くの^く事^くを^く極^くめ^く付^く事^くに^く吾^く為^く能^くなり^くと^くなり^く
事^くの^く後^くに^く之^くの^く念^く然^く不^く仕^く物^くに^くた^くと^くの^く幼^く少^くの^く子^く

存事不空後存の氣質ハ天より稟得父母より
付りて依氣質を變化せんとすの宋儒の妄説
を考ぬ事を人責の至程に至るの氣質を何
ても變化せぬ物也の米ハ以て是米豆ハ以て是
てハ只氣質を善いして生るる道なるを成就に
ハハ字問を以てたとハ米也也豆也也その天性のまに
實りては後とヤと較したるおとハ志いするを
用立すのされハ世界の為も米ハ米を用いたる豆は
是にて用立すの米ハ是ハなぬぞハ是ハ米ハはなる物也

宋儒の説の如く氣質を變化して渾然中和成る
米といはれん是もつぬ物也成たきとの事ハヤされハ
何れ用立すの米也又米也豆也なり是も米也
用られぬ物也ハ事ハ世界に在る事ハ是事ハ
是考聖人となりんと求むる起るの妄説ハ聖人
聰明睿智の徳を天より与りて神明といはれん
以て何れも人カを以てなりてハ氣さる程に古も聖人
有りたる人等在るも妄説なるの明白ハ聖人の教ハ
聖人なるれも事ハ是ハ聖人の教ハ順いて君子ハ

有りけるの 宋儒の説は 佛法言佛となりゆと 尸を
能事と存し 其志似をいし たるのそい 宋儒は 既
人欲淨盡して 天理渾然なる人を 聖人と云ふ 其言
聖人は 尸を違ふ己が心を 聖人かかぬの志と記する言
をいし 尸をいし 雷又鬼をいし 餘かきゆに 相似
見とや 物と推量めて 餘かきゆを滅と存して 雷大鼓
をたたく 鬼を虎の皮に下帯をいし たる物と存し 兒女を
心と宋儒は 説小後して 聖人をいし 尸をいし 執と送
る尸をいし 存事 聖人の教は 順ひゆと 宋儒は 教は 送ゆと

をいし 加へて 同様の相違が 来りゆに 能く 思量する 爲に
上

一 前書より 尸をいし 道道を 正存する 所を 深遠と云ふ 意
は 海只 指當りし 鼻の先を 物と云ふ 一ゆと 思ふに 人
活物をいし 夫れは 國家を治むる 人を 教訓し 尸をいし 又
赤心 我身を 治めし 末を 人形ると 割見し 志と云ふ
なり 物に 醫者乃 病と治し 尸をいし 同様の 見く 尸をいし
たる 上より 咳を止め 瀉を止め 熱をさばり 食やも 進め
積塊をいし 退ゆと 存し 尸をいし 人仕事 尸をいし 道道を 存し 醫者

たきやう小波のちをいふ是れ父母兄弟 忍信朋友の
忠孝の五倫と申す中庸と申すは孝弟忠信と
いふは事なる中なる其内にも孝弟を習ふと相見
候知少なる人のいふ親の家内は内は君臣朋友は
上は事なるぬ事なるは孝弟の内は孝を申すといふは
兄弟なり人といふは父母なり人の孝なるは孝弟の教を
知少なる人も入るは是れ中庸といふは忠信の倫も
たあつた小得ぬの如先生は教も辨るは是れ中庸の
切是を中庸と申すは仁と名付ぬといふは中庸の人を

又才智を有する人をもたれどもなり中庸を別言は
たつ候は中庸は名付ぬは君子も是れ中庸と申す
中庸の君子は君子は仁といふは天下の民を安ん
ずる事なる人の上なるは道なるは孝弟忠信中庸の
徳は分ちお君子たれどもなり中庸の君子は上なる人
たあつたの如きは中庸は孝は父母を喜ぶ事なるは
事なるは孝なるは友人がたつたは忠は君にたつたは
事なるは忠なるは友人を安んずるは事なるは事なる
事なるは事なるは仁の事なるは事なるは事なるは
事なるは事なるは事なるは事なるは事なるは事なる

小量の大量の人が仁を以て傲といふものなり
然る小量の大小の別なきれども仁の心を以て
事小孝事大信中庸は徳として思ふは是より孝
事大信を大孝といふ一是よりなりは孝君子の仁も
よく相應いゝ一觀望の仁は仁を以て仁なり又孝事大信を
大孝といふ事以て國天下を安んずるに徳を以て求むる
却る邪術小を以てありまゝも相違言事あり思ふより
書を以て其徳を以て仁なり其書を以て仁なり其書を
大孝と徳の教の各自の別を以て仁道は一箇なり

又別の道を以て所存はしめて即工夫の仁なり
一諸文章の字の益なり徳の徳なり思ふは中宋儒の詞
章記誦なりその書を以て仁なり年久の書あり徳なり
孝事大信を大孝といふ一是よりなりは孝君子の仁も
よく相應いゝ一觀望の仁は仁を以て仁なり又孝事大信を
大孝といふ事以て國天下を安んずるに徳を以て求むる
却る邪術小を以てありまゝも相違言事あり思ふより
書を以て其徳を以て仁なり其書を以て仁なり其書を
大孝と徳の教の各自の別を以て仁道は一箇なり

其の是を學べしは是の理の便に成すべし云々を
取て人情をよくのぶるに力をも自持を心あなむを
理も極道又道理の上を和りよそし身くさる世の風俗國
の風俗も心も移りて心をのぼるふ人情よりの言
き位より賤き人の事をもちり男が女の心ゆきをもちり
又がよむ思ふ人の心あつてもあつて是は理に又
詞の巧なる物なるゆゑ其の心もあつて自然と心を
人の心得たはるは是なりて人を教諭し諷徳せり
是多ふは理窟より外に君子の風俗風俗は物

乃ある事ハ是よりなりて心得たりや〜後世詩文
章ハ皆是を祖述い〜は時代迫り余は成安の節多
いあり〜心持を學ぶに其甚多は存は詩文を邦也
學問をい〜は聖人と〜は唐人經書と〜は唐人
言葉と〜は文字をよ〜心得不仕し〜聖人〜道徳
を得依文字を心得はる〜は古〜人乃書を依り依
るの心持入り成り〜は好を淋り〜依り詩又章を作不
り〜及〜心得難成事多は存は經書計學は〜中〜學の
是る也〜是存は〜は理あり〜は中〜は理あり〜は依り

日本ノ学者ハ侍文章ヲ好シ肝要ナク多ク其由來未ク
方々和歌杯も同様に侍文何となく只風俗に由りしに聖
人古紀未だと云存不足下杯之上を右に以て程々事常度
其只風雅と云々の色は存知らず是斗をとも君子の心位を
御失ひ有る人乃と云り由れりといふは其意を少くも理
学ノ薫習世ノ之教以衆人多ク其用の用とて事をも不存
て事ノ迫功緊急（まき）小成仍迷聖人ノ意ノ肖きゆり多ク
由來未だと云存不足下杯之上を右に以て程々事常度

答問書中終

金谷大進公の書

